



猶之婦手

序目録

ホ 2  
4779  
1



門ホ2  
號4779  
卷1

素直の婦手



江藤文庫

あつた世の調しひとすはあはるる  
こころをさへんこころをさへん  
あつた世の調しひとすはあはるる  
こころをさへんこころをさへん  
あつた世の調しひとすはあはるる  
こころをさへんこころをさへん

昭和十六年一月十日  
尼野貴子



































うめゆ	うほび	うほら	うけい	うで	うでつ	うこは	うたも	う	せ
ハニオ	セウ	セウ	セウ	ハナウ	ハナウ	セハオ	セハウ	セウ	セウ
うめ	うほ	うほ	うけい	うで	うでつ	うこは	うたも	う	○ せ
ハニオ	セウ	セウ	セウ	ハナウ	ハナウ	セハオ	セハウ	セウ	セウ
うめ	うほ	うほ	うけい	うで	うでつ	うこは	うたも	う	せり
セウ	セウ	セウ	セウ	ハナウ	ハナウ	セハオ	セハウ	セウ	セウ
うめ	うほ	うほ	うけい	うで	うでつ	うこは	うたも	う	せん
ハニオ	セウ	セウ	セウ	ハナウ	ハナウ	セハオ	セハウ	セウ	セウ
うめ	うほ	うほ	うけい	うで	うでつ	うこは	うたも	う	せむ
ハニオ	セウ	セウ	セウ	ハナウ	ハナウ	セハオ	セハウ	セウ	セウ

せの	せ	せ	せ	す	す	す	す	す	す
セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ
せ	せ	せ	○ せ	す	す	す	す	す	す
セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ
せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん
セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ
せ	せ	せ	せ	す	す	す	す	す	す
セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ
せ	せ	せ	せ	す	す	す	す	す	す
セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ	セウ















ぬき	百ナク	ぬきす	百ナク	ぬく	百ナク	ぬき	百ナク	ぬ	百ナク
ぬすまひ	百ナク	ぬで	百ナク	ぬなほ	百ナク	ぬのぎぬ	百ナク	ぬき	百ナク
ぬま	百ナク	ぬま	百ナク	ぬき	百ナク	ぬき	百ナク		
ぬまきぬ	百ナク								

〇 祢

ね	百ナク	ね	百ナク	ね	百ナク	ね	百ナク	ね	百ナク
祢ひ	百ナク	祢ま	百ナク	祢ぎぬ	百ナク	祢ら	百ナク	祢	百ナク
祢ぢけ	百ナク	祢つこ	百ナク	祢や	百ナク	祢ら	百ナク	祢	百ナク
祢ぢの	百ナク	祢やけ	百ナク	祢ら	百ナク	祢ら	百ナク	祢	百ナク
祢ぢ	百ナク	祢ら	百ナク	祢ら	百ナク	祢ら	百ナク	祢	百ナク

〇 能

の	百ナク	の	百ナク	の	百ナク	の	百ナク	の	百ナク
のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク
のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク
のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク	のま	百ナク

のす	百ナク	のせ	百ナク	のま	百ナク	のた	百ナク	のぢ	百ナク
のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク
のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク
のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク	のぢ	百ナク

波比不区保の部

は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク
は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク
は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク
は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク	は	百ナク





















引書畧名

古	古事記	日	日本紀	釋日	釋日本紀	續日	續日本紀
後紀	日本後紀	續後紀	續日本後紀	式	延喜式	祝	延喜式
万	万葉集	菅方	菅家万葉集	新字	新撰字鏡	和	和名抄
江次	江家次第	古拾	古語拾遺	靈	靈異記	古今	古今集
後	後撰集	拾	拾遺集	後拾	後拾遺集	金	金葉集
詞	詞花集	千	千載集	新古	新古今集	新勅	新勅撰集
續後	續後撰集	續詞	續詞花集	堀首	堀川院百首	源	源氏物語
伊	伊勢物語	文	文選	仙	庭仙窟		

此餘諸書名ハ全ク舉

